



0 コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

odrt.bin

Cisco SME のデータのオフライン リカバリを実行するには、Linux ベースのシステムで **odrt.bin** コマンドを使用します。MSM-18/4 モジュールまたは Cisco MDS 9222i ファブリック スイッチが利用できない場合は、このコマンドを使用してデータを回復できます。

```
odrt.bin [--help][--version]{-h|-l|-r|-w}{if=input_device_or_file|of=output_device_or_file|
kf=key_export_file|verbose=level}
```

シンタックスの説明

--help	(任意) ツールに関する情報を表示します。
--version	(任意) ツールのバージョンを表示します。
-h	テープのテープ ヘッダ情報を読み取り、出力します。
-l	すべての SCSI デバイスを一覧表示します。
-r	テープ デバイスを読み取り、データを中間ファイルに書き込みます。
-w	ディスク上の中間ファイルを読み取り、データをテープに書き込みます。
if	入力デバイスまたはファイルを指定します。
of	出力デバイスまたはファイルを指定します。
kf	ボリューム グループ ファイル名を指定します。
verbose	レベルを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

なし。このコマンドは Linux シェルから実行します。

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.3(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

odrt.bin コマンドは次のように動作します。

- テープからディスク — このモードでは、**odrt.bin** コマンドはテープから暗号化されたデータを読み取り、それを中間ファイルとしてディスクに保存します。'-l' フラグを使用してこのモードを呼び出します。入力パラメータはテープ デバイス名です。ディスク上のファイル名は出力パラメータです。
- ディスクからテープ — このモードでは、**odrt.bin** コマンドはディスク上の中間ファイルを読み取り、(該当する場合は) そのデータの圧縮を解除して、テープに平文データを書き込みます。復号化鍵は、Cisco Key Management Center (KMC) からエクスポートされたボリューム グループ ファイルから取得します。'-w' フラグを使用してこのモードを呼び出します。入力パラメータはディスク上のファイル名です。テープ デバイス名は出力パラメータです。ボリューム グループ ファイル名 (鍵エクスポート ファイル) をパラメータとして指定することもできます。コマンドプロンプトで鍵エクスポート パスワードを入力する必要があります。

例

次のコマンドは、テープの Cisco テープ ヘッダ情報を読み取り、出力します。

```
odrt -h if=/dev/sg0
```

次に、テープ上のデータを読み取り、それをディスク上の中間ファイルに保存する例を示します。

```
odrt -r if=/dev/sg0 of=diskfile
```

次のコマンドは、中間ファイルの暗号化または圧縮されたデータを読み取り、それを復号化または圧縮を解除したデータに戻してからテープに書き込みます。

```
odrt -w if=diskfile of=/dev/sg0 kf=c1_tb1_Default.dat
```

odrt コマンドの出力例は、次のとおりです。

```
[root@ips-host06 odrt]# ./odrt.bin -w if=c of=/dev/sg2 kf=sme_L700_IBMLT03_Default.dat
verbose=3
Log file: odrt30072
Please enter key export password:
Elapsed 0:3:39.28, Read 453.07 MB, 2.07 MB/s, Write 2148.27 MB, 9.80 MB/s
Done
```

ocsp url

トラスト ポイント CA の Online Certificate Status Protocol (OCSP) の HTTP URL を設定するには、トラスト ポイント コンフィギュレーション サブモードで **ocsp url** コマンドを使用します。OCSP 設定を廃棄するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
ocsp url url
```

```
no ocsp url url
```

シンタックスの説明

<i>url</i>	OCSP URL を指定します。最大文字サイズは 512 です。
------------	----------------------------------

デフォルト

なし

コマンド モード

信頼点コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

トラスト ポイントに設定された失効チェック方式に方式の 1 つとして OCSP が含まれている場合のみ、MDS スイッチは OCSP プロトコルを使用して、ピア証明書の失効ステータスをチェックします (たとえば、IKE または SSH のセキュリティまたは認証交換中に提示)。OCSP はオンラインプロトコルを使用し、ネットワーク トラフィックを生成して、CA の OCSP サービスがネットワークのオンラインで使用できる必要がある CA の最新の CRL に対して、証明書の失効ステータスをチェックします。

一方、失効チェックが MDS スイッチでキャッシュ CRL によって実行された場合、ネットワーク トラフィックは生成されません。キャッシュ CRL には最新の失効情報は含まれません。

トラスト ポイントの CA を認証してから、OCSP URL を設定する必要があります。

例

次に、OCSP の URL を指定して失効した証明書をチェックする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# ocsp url http://admin-ca.cisco.com/ocsp
```

次に、OCSP の URL を削除する例を示します。

```
switch(config-trustpoint)# no ocsp url http://admin-ca.cisco.com/ocsp
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca crl-request	CRL を設定するか、既存のトラスト ポイント CA の 1 つを上書きします。
revocation-check	トラスト ポイントの失効チェック方式を設定します。
show crypto ca crl	設定された CRL を表示します。

out-of-service

インターフェイスをアウト オブ サービスにするには、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードで **out-of-service** コマンドを使用します。インターフェイスを使用可能に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

out-of-service [force]

no out-of-service [force]

シンタックスの説明	force	強制的にアウト オブ サービスにするようインターフェイスを設定します。
------------------	--------------	-------------------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション サブモード
-----------------	----------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **out-of-service** コマンドを使用する前に、**shutdown** コマンドを使用してインターフェイスをディセーブルにする必要があります。

インターフェイスがアウト オブ サービスになると、インターフェイスに関連付けられている共有リソースはすべて解放されます。



注意

インターフェイスをアウト オブ サービスにすると、すべての共有リソースが解放され他のインターフェイスが利用できるようになります。これで、インターフェイスが使用可能に戻されたとき、共有リソースの設定はデフォルトに戻ります。また、ポートのデフォルト共有リソースが利用できない場合、インターフェイスは使用可能に戻ることはできません。別のポートから共有リソースを解放する動作は中断を伴います。

例 次に、インターフェイスをアウト オブ サービスにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# interface fc 1/1
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)# out-of-service
Putting an interface into out-of-service will cause its shared resource
configuration to revert to default
Do you wish to continue(y/n)? [n]
```

次に、インターフェイスを使用可能にする例を示します。

```
switch(config-if)# no out-of-service
```

関連コマンド	コマンド	説明
	shutdown	インターフェイスをディセーブルにします。
	show interface	インターフェイスのステータスを表示します。

out-of-service module

Cisco MDS 9500 シリーズ ディレクタのスーパーバイザ モジュールの一体型クロスバーを正常にシャットダウンさせるには、EXEC モードで **out-of-service module** コマンドを使用します。

out-of-service module slot

シンタックスの説明	<i>slot</i>	モジュール番号を指定します。Cisco MDS 9506 および 9509 ディレクタの場合、有効範囲は 1 ~ 6 です。Cisco MDS 9513 ディレクタの場合、有効範囲は 1 ~ 3 です
------------------	-------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	EXEC モード
----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン MDS 9500 シリーズ ディレクタからクロスバーを取り外す前に、クロスバーの正常なシャットダウンを実行する必要があります。

Cisco MDS 9513 または 9509 ディレクタのスーパーバイザ モジュールの一体型クロスバーを正常にシャットダウンさせるには、EXEC モードで **out-of-service module** コマンドを入力します。

out-of-service module slot

slot は、一体型クロスバーが存在する Supervisor-1 モジュールまたは Supervisor-2 モジュールのシャーシスロット番号を示します。



(注) 一体型クロスバー モジュールを再度アクティブにするには、Supervisor-1 モジュールまたは Supervisor-2 モジュールを取り外し、再挿入または交換する必要があります。

クロスバー管理の詳細については、『Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide』を参照してください。

例 次に、一体型クロスバーを正常にシャットダウンする例を示します。

```
switch# out-of-service module 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	out-of-service xbar	Cisco MDS 9513 ディレクタの外部クロスバー スイッチング モジュールを正常にシャットダウンします。
	show module	モジュールのステータスを表示します。

out-of-service xbar

Cisco MDS 9513 ディレクタの外部クロスバー スイッチング モジュールを正常にシャットダウンさせるには、EXEC モードで **out-of-service xbar** コマンドを使用します。

out-of-service xbar slot

no out-of-service xbar slot

シンタックスの説明	<i>slot</i>	外部クロスバー スイッチング モジュールのスロット番号 (1 または 2) を示します。
デフォルト		なし
コマンドモード		EXEC モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン MDS 9500 シリーズ ディレクタからクロスバーを取り外す前に、クロスバーの正常なシャットダウンを実行する必要があります。

管理者は、Cisco MDS 9513 の外部クロスバー スイッチング モジュールを正常にシャットダウンさせるには、EXEC モードで **out-of-service xbar** コマンドを入力する必要があります。

out-of-service xbar slot

slot は、外部クロスバー スイッチング モジュールのスロット番号を示します。



(注)

外部クロスバー スイッチング モジュールを再度アクティブにするには、クロスバー スイッチング モジュールを取り外し、再挿入または交換する必要があります。



注意

クロスバーをアウト オブ サービスにすると、スーパーバイザのスイッチオーバーが発生します。

クロスバー管理の詳細については、『Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide』を参照してください。

例

次に、Cisco MDS 9513 ディレクタの外部クロスバー スイッチング モジュールを正常にシャットダウンする例を示します。

```
switch# out-of-service xbar 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
out-of-service module	Cisco MDS 9500 シリーズ ディレクタのスーパーバイザ モジュールの一体型クロスバーを正常にシャットダウンします。
show module	モジュールのステータスを表示します。